

令和5年度第2回安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想策定委員会 会議概要

- 1 会議名 令和5年度第2回安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想策定委員会
- 2 日時 令和5年8月9日 午前10時00分から午前11時30分まで
- 3 場所 安曇野市役所 3階 共用会議室305
- 4 出席者 安曇野市 政策部長 渡辺 守
商工観光スポーツ部長 鳥羽 登
教育部長 矢口 泰
千曲川河川事務所 所長 中根 達人
安曇野建設事務所 所長 小林 宏明
松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科 教授 山根 宏文
信州大学キャリア教育・サポートセンター 専任講師 勝亦 達夫
2000年シドニー五輪カヌースラローム日本代表 安藤 太郎
安曇野市商工会 青年部部長 岩垂 巧磨
安曇野市観光協会 企画営業課長 佐藤 亜紀子
合同会社うずまき（龍門渚てらす） 横内 健人
アルプス女性企業家会議会長 石田 恵美
- 5 事務局 政策経営課長 黒岩 一也、企画担当係長 白鳥 和子
- 6 公開・非公開の別 非公開
- 7 会議録作成年月日 令和5年8月9日

協議事項等

◎会議次第

- 1 開会
- 2 安曇野市役所あいさつ
- 3 検討会議
 - (1) 追加調査の結果について（資料1）
 - (2) ヒアリング結果・ワークショップの結果報告（資料2）
 - (3) アウトドア拠点の方向性について（資料3）

4 閉会

3 検討会議

- (1) 追加調査の結果について（資料1）

【事務局説明】

- ・前川におけるカヌーに関する追加調査に関する報告

【委員】

接触トラブルは具体的にどのようなトラブルがあるか

【事務局】

川へ入る上で大きな機材を持ち運びながら周囲の公園を通ることがあり、通る道も決まっていないことから、場合によってはそのような接触が起こる可能性がある

(2) ヒアリング結果・ワークショップの結果報告（資料2）

【事務局説明】

- ・ 専門家からのヒアリング事業者ヒアリングの結果の報告
- ・ ワークショップの経過報告

【委員】

特になし

(3) アウトドア拠点の方向性について（資料3）

【事務局説明】

- ・ 専門家や地域事業者等からのヒアリング、ワークショップを踏まえた SWOT 分析の報告。
- ・ 積極化戦略、差別化戦略、改善戦略、撤退戦略各々における方向性の提示。
- ・ 拠点の大きな方向性として、
 - ①一般客向けの観光を基軸とした拠点整備、
 - ②地域スポーツクラブを中心とした拠点整備 の2つを提示。
- ・ アメリカのホワイトウォーターパークの事例に関する説明。
- ・ 基軸別のメリット、デメリットに関する説明。
- ・ 拠点を整備する可能性のあるエリアに関する説明。

【委員】

- ・ 観光客という考え方が失敗と言うわけではないが、教育旅行・修学旅行の中で使うスポーツには指導要領があり、自己肯定感やチームワークを育むという観点でアウトドアは優れており、ラフティングを使うのは1つである。
- ・ 近隣の競合地域にないものも明科地区にあるため、連携してほしい。
- ・ ターゲットに関しては、ファミリー層や子どもなど地域の人たちに愛される場所になることで観光客も来るようになるため、まずは地域の子供達に焦点を当てたターゲティングが必要なのではないか。

【事務局】

- ・ 地域の子供達自分たちの地域が水と共にあり、この川が地域のチャームポイントであり、学ぶことができるといった魅力を感じることができるのが大事であり、地域の賑わいの創出にもつながると感じている。

【委員】

- ・観光客をたくさん集めるとすると、周辺の地域でうまくいっている事例を持ち込んで成り立たせるように見えてしまうし、地域の中で完結させてしまうとなかなか外から人が来なくなってしまうため、どうバランスを取っていくかが重要であると考えている。
- ・ウォーターアクティビティに関心を持つ人をターゲットとして見るのではなく、いかにコミュニティ形成をしていくかが必要と考えている。明科の環境に共感してもらい、通い続けてもらえるような環境が重要で、川で遊ぶ人や眺める人、食を楽しむ人など、コミュニティを形成していく仕掛けにしていったらよいのではないかと考える。
- ・教育に関しては核になると考えている。人口減少の中で、学ぶ機会はますます大事になる。水に関する事故のニュースをよく聞くが、コロナ渦で外に出る体験が少なすぎてそういった影響が出ている可能性があり、安全に危険を学ぶことができる場所もニーズがあるのではないかと考える。

【事務局】

- ・ここが好きだと思う人が増えるのが大事で、川を楽しめる一員になれる仕組みを作っていく必要がある。
- ・安全に危険を学べるということも重要。危ないから川や水に入らないでというイメージがある中で、どのように伝えていくかを考えながら仕組みをつくっていく必要がある。

【委員】

- ・川にかなりフォーカスされた印象を受けた。山と川と空、街がうまく融合された計画を考えていて欲しい。
- ・「まちなかに川がある」と表現されるが、住民からすると、街と川は分かれており、街と一体となっている感じはない。川に来た人たちがまちなかを歩くなど川と街が融合していくようなハード・ソフトの整備や導線がまちづくりの上では必要ではないか。
- ・アウトドアアクティビティは地域の象徴と考えているが、直接アクティビティに関係のない何十倍もの一般の方々も興味を持ってくれるような仕掛けを作っていないと限られた人のための空間になってしまう。

【事務局】

- ・里、川、空がコンパクトにまとまっているというのは明科の強みであり、まちなかも含めた地域全体としていかに賑わいを創出していけるかを考えていく必要があると考えている。
- ・観光や商業を街の中で膨らませていくためには、事業の収支があり、継続していかなければならず、どのくらいの事業者が事業をしようと思ってくれるかが大切になる。今後、まちなか、里山に賑わいを広げていくには、どういった方々が地域を拠点として事業をしたいと立ち現れて下さるかが重要であると考えている。事業を既にやってくれる方はいるものの、たくさん観光客を受け入れるために事業を大きくしてやっていきたいという方がいないか、今後の分科会を通じて投げ

かけていく必要があると考えている。

【委員】

- ・前川の整備も良いと思うが、今まで行ったことがなく前川だけなのかという疑問がある。
- ・子ども達が安全な川で川遊びができるというのを広めていくことで、より子どもたちが地域を好きになり、外の方も自然に親しめ、またここに帰って来たいと思ってもらえるのではないか。
- ・本当に明科を好きになる人を増やすには、身近な自然や人を好きになってもらえるのが大切ではないか。
- ・大きな整備より、必要最低限の整備で、単純に川で遊べたり魚を取ったりできるような場があれば、親としても子どもをそういったところで育てていきたいと思えるのではないか。

【事務局】

- ・今回拠点の方向性として2つ提示したが、委員の皆様の様々なご意見をお聞きしたかったため、それぞれをやりたい、やりたくないではない。
- ・川や自然などを含めた、拠点周辺の環境をどうしていくかは市の皆様と相談していきたいと考えている。

【委員】

- ・今回の話について、一番のベースは過疎からきているので、住民がここに住んでいてよかった、ここに住みたいと思うのが着地点だと思う。そのために必要なのが、子ども達が街に興味を持ってくれたり、住みたいと思ってくれたりすることだと思う。
- ・教育という観点でも、人が集まれる場所づくりが重要。アウトドアの拠点施設を作ったことでどう街がにぎわっていくかは、街との連携や導線まで考えて一歩目を踏み出していないと、後が続かないと考えている。
- ・街の活性につながるという意味では、地域スポーツクラブの方が地域のためになると考えている。観光客は確かにお金を落とすかもしれないが、それが地域のここに住んでいてよかった、住みたいにつながるか。地域と一体となっていないと過疎化対策にはつながらず、地域スポーツクラブの中にスポーツと教育を掛け合わせることで過疎化の課題解決に近づくのではないかと考えている。

【事務局】

- ・地域の子どもたちに愛着を持ってもらいたいという想いはヒアリングやワークショップを通じて感じている。教育という観点やまちなかにどう導線をつくっていくかは今後も考えていく。

【委員】

- ・何より感じるのは人だなと感じている。愛着とおっしゃっていたが、ここに住んでいる人にとっては当たり前なので、教育と結びつけていくのはすごく難しいところだと感じている。

- ・ 人不足という課題がある中で、観光としてもガイドの養成が必要だと考えている。人不足の問題は時間がかかるため、魅力を伝えていき安曇野の顔となるようなガイドの育成についても踏み込んでいただけるといいと考えている。

【事務局】

- ・ 今後の策定に参考にさせていただく。

【委員】

- ・ 方向性として、使いづらい前川の整備をきっかけとして、スポーツクラブの拠点をやっていくのは良いのではないかと考えている。
- ・ 山や里へも目を向けていくきっかけとしても、スポーツクラブをやっていくのはとりあえず賛成である。

【委員】

- ・ 2つの基軸のバランスを上手に取りながら進めていくのが重要だと感じている。
- ・ 持続可能な取り組みにしていくためにも、地元の方を巻き込むような観点を持ち、地元の明科を中心とした地域の方々を忘れないでほしい。
- ・ 『拠点整備』となるとハードのイメージがあるが、今後拠点の方向性を議論していくにあたっては、ハード面だけでなく、整備を通じて何を実現して、どんな地域にしていきたいのかを表現に入れると良いのではないかと

【事務局】

- ・ 参考にさせていただく。

【委員】

- ・ 明科のポテンシャルを活かすことを考えると、安曇野市内全体も考えて今ある既存の施設を活かしながら考えていくのが良いのではないかと。

【事務局】

- ・ 明科だけで完結させていくことは考えていないため、広い目線で考えていく。

【委員】

- ・ 教育といっても教育旅行という外からの誘客の観点があると思う。
- ・ 前川は見たことはあるが入ったことはない人が多い。水位もありハードルが高いイメージがあり、もしかするとそのポテンシャルを理解していないかもしれないと考えている。パラグライダーも。
- ・ 市民の盛り上がりが必要でもあるが、川も空も怖さがあるためそこから払拭していく必要がある。

- ・拠点整備の想定範囲になっている場所は薪能の会場として使われていることを情報共有しておきたい。

【事務局】

- ・地域のポテンシャルを理解する上でも現場を見ていただくのが良いのではないかと考えている。

【委員】

- ・スポーツクラブを中心としてやっていくのはスポーツ振興を考えると良いと考えている。
- ・一方で、東山の観光面でランチャー台の整備等を行い、廃線敷もあるため、象徴としてはウォーターアクティビティでありつつ、全体的な東山も含めた観光の賑わいをつくる仕組みづくりを考えていくのが良いのではないか。
- ・拠点の大きさにもよるが、どこに何を置いてどんな施設にするかを考える際に、天平の森など既存の施設もサブ施設として活用していくのも良いのではないか。

【事務局】

- ・周辺環境を有効に活用していく必要があると考えている。場所を提示したものの、全体的な位置関係も踏まえてもう少し検討する余地がある。

【委員】

- ・明科駅前のあやめシティ跡地を使うことはできないのか。川沿いの土地だと浸水の可能性もある。

【事務局】

- ・市の土地ではないが、方向性としては考えても良いかもしれない。

【委員】

- ・拠点整備の想定場所の隣に水産試験場があり、信州サーモンも観光資源になりうるのではないか。資料の上では拠点の整備場所を絞ってしまっているが、常に拠点の視点とエリアの視点で考えてみても良いのではないか。
- ・事業者にとっても協力できるような食や図書館、こども園、JAなどの地域の連携を拠点のスケールとエリア全体のスケールを考え、事業をやりたい人や関わりたい人を集めることを地域側としても考えていく必要があると考えている。

【事務局】

- ・今月末にワークショップも開催されるため、地域の人たちからも声を聞きながら反映させていく。

【委員】

- ・冬の集客が弱いことに関しては安曇野全体としても長年の課題のため、冬に来て楽しめるようなものにしてほしい。

【委員】

- ・地域で水に携わる人たちが増えると安全対策に関して周知することができる。それにより親しむ人も増える。メディアの間違った情報もあるため、そういった部分も地域スポーツクラブの使命として発信・教育していくことで、地域に還元していくべきであると考えている。

【委員】

- ・夏休みの水難事故は増えていて、周知をしているものの限界があるため、リバーアクティビティに関わる NPO 法人等にも協力を仰いで連携していくのが良いのではないか。
- ・拠点の整備を考えていくにあたり、河川の水面利用等ルール調整をしていく必要がある。協議会形式で決めている例もあり、関係者を集めた上で検討していても良いのではないか。

【事務局】

- ・参考にさせていただく。

【委員】

- ・一回全員で体験して明科の良さを知った上で会議をするのがいいのではないか。

【事務局】

- ・改めて調整していく。

【委員】

- ・施設を作った時にスポーツをやる人、やらない人も集まってくるため、芸術や食も取り入れていき、色々な人たちが触れ合えるような場がいいのではないか。

【事務局】

- ・基本的には地域の人が納得して、必要な部分を確認していく必要がある。事務局の考えを第 2 回・第 3 回のワークショップでも話をした上で、次回の策定委員会でお出しできたらと考えている。